

編集後記

2023年11月15日、創立者が逝去されたとの報に我々が接したのは、『創価教育学体系』発刊の日である11月18日のことであった。改めて、心より哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げたい。当研究所は11月20日、研究所のウェブサイトにて「訃報 創立者池田大作先生 ご逝去」を勸坂所長名義で掲載した。そこでは、「池田先生が実践・展開された創価教育の精神を永く未来に継承し、広く世界に伝えるために、研究・教育に尽力することをお誓い」と述べている。創立者のお名前を冠した当研究所の教職員一同、この誓いを確認する意味で、本号の冒頭にこの訃報を収録することにした。

創立者の逝去より間もない12月1日から22日まで、「創価大学所蔵 ゲーテ重宝展」が中央教育棟で開催された。これは2003年に行われた創立者の第1回特別文化講座「人間ゲーテを語る」より20年の佳節を迎えたのを記念して、創価大学が所蔵するゲーテ関連の貴重資料を公開したものである。創価大学はゲーテの直筆書簡9通を所蔵しており、これは日本で最多のコレクションである。展示の制作には伊藤貴雄副所長をはじめとする当研究所のスタッフが全面的に携わったことから、展示内容や開幕式の記録などからなる展示報告を本号に掲載した。

本号には、2023年に行われた講演の中から3本を掲載した。まず、ドイツの著名な宗教学者であるミヒャエル・フォン・ブリュック氏による寄稿は、3月15日に行われた研究所主催研究会での講演をもとにしたものである。また、日本地理教育学会元会長・斎藤毅氏の「牧口常三郎先生と『人生地理学』—その新たなる展開—」、ドイツ文学者・田中亮平氏（本学副学長）の「創立者のゲーテ論をめぐって」は、それぞれ6月12日、9月25日に行われた研究所主催講演会の講演記録である。

中国における「池田思想」研究の動向についての報告は、本号で節目となる20回目を迎えた。2023年に開催された池田思想研究の学術シンポジウム等のほか、池田研究の成果等を紹介している。

資料紹介では、岩木勇作氏による「牧口常三郎のペンネーム「澎湃」名義の作品について」、塩原将行氏による新たに発見された牧口書簡の翻刻を掲載した。また、1974年に行われた周恩来・池田大作会談から50年を迎えるのを機に、この会談の内容について調査した結果を報告している。

おわりに、今回の紀要に原稿をお寄せ下さった諸先生方、そして紀伊國屋書店をはじめ御協力・御尽力いただいた方々に、この場を借りて篤く御礼を申し上げたい。

2024年3月 (T.S.)